

2023年11月10日 記者会見 質疑応答（神戸）

発表内容：2024年3月期中間決算について

日 時：2023年11月10日（金） 16時00分～16時45分

場 所：みなと銀行 本店

発表者：みなと銀行 代表取締役社長

武市 寿一

関西みらいフィナンシャルグループ 取締役兼執行役員

持丸 秀樹

りそなホールディングス 執行役

岩館 伸樹

【質疑応答】

Q. 国内の貸出金利息 15年ぶり反転について要因は

A. (武市)

国内の貸出金利息は129億円で昨対比7千万円増加と15年ぶりに反転した。ボリュームの増加が主因。国内貸出金利回りは低下しているが低下幅は年々減少している。貸出金の平均残高が昨年度下期に増加した要因もあり貸出金収益の反転に繋がった。この傾向は10月以降も続いており定着できると考えている。

Q. 資金需要は弱ってきている？来期以降の利息収入は

A. (武市)

上期の県内（みなと銀行以外を含む）の貸出金は減少した。要因は昨年度下期に県内の貸出金が大幅増加したことの反動減か、原材料の高騰や企業の倒産が増えているため、企業の慎重姿勢が高まったのか、両方なのか注視していきたい。なお、みなと銀行については大型の案件が減ってはいるが、上期も県内の貸出金は増加できている。

Q. 関西みらいフィナンシャルグループが果たした役割の総括、中間持株会社があったことによるデメリットは

A. (岩館)

関西みらいフィナンシャルグループ発足から5年となるが、収益など一定の効果があつたと考えている。中間持株会社があつたことによるデメリットは持株会社（りそなホールディングス）と子銀行の距離感にあつたが、中間持株会社がなくなることによって経営判断のスピードが上がるかと考えている。

Q. 定期預金の引き上げについてグループ一体で上げる狙いは？みなと銀行として体力面に問題は無いのか？

A. (武市)

先日5年物の定期預金金利を引き上げた。収益環境や地域や体力面、顧客基盤の違いから、違った戦略をとっていくということも考えられるが、基本的なものについては揃えていくべきと考えている。また、体力的には今回の金利引き上げ程度のことであれば問題ない。

Q. 関西みらい銀行のトップが交代して6か月以上たつが、コミュニケーションに問題ないか？  
A. (武市)

トップが変わったからといってコミュニケーションが変わるということはない。従来通り定期的にミーティングをしており、スムーズにしている。

Q. 貸出戦略への金利上昇の影響は？取引先との金利交渉、社員への教育は？

A. (武市)

みなと銀行の貸出金の金利構造は短プラ、市場連動、固定がそれぞれ3分の1となっている。したがって、金利の上昇は貸出ビジネスとしてはプラスに働くと考えている。金利が上がった時のシミュレーション、整理は進めており顧客対応等については大きな心配はしていない。

Q. 与信管理費用の現状認識を教えてください

A. (武市)

現状、与信費用は3億円の低位で抑えられているが、小口先については倒産が増えており今後も増加すると予想している。但し、保全率が高い層が多いので与信費用に与える影響はそれほど大きくない。大口貸出金については、懸念のある先は本部のサポートにより別途管理をしているが、この層は業況把握ができているため、想定外の業況悪化は考えにくく、計画の30億円に近づく可能性は低いと考えている。

Q. 冒頭の景況感の話で兵庫県の企業は慎重な姿勢が出てきているという話があったがどのようなサポートをしていく？

A. (武市)

兵庫県の企業は慎重な企業が多い中、みなと銀行としては事業再構築、脱炭素の動機づけに取り組んでいる。アトツギベンチャーへの取り組みや事業再構築補助金の窓口も設けている。脱炭素については兵庫県の認証事業に取り組む先を支援している。

Q. 関西みらい銀行とみなと銀行の共同店舗化(芦屋)が11月20日に予定されているが狙いおよび今後の展望は

A. (武市)

11月20日から芦屋駅前支店が共同店舗になる。関西みらい銀行の芦屋支店は賃貸でみなと銀行は自社物件であるためコストが削減できる。2025年1月にシステム統合を予定しており、システム統合時にひとつの場所にあるということで様々なサポートが受けられると考えている。今後の共同店舗化については状況を見ながら判断していくことになるが、具体的な検討はシステム統合後となる。

Q. システム統合後の店舗の運営時間はりそなと同じ17:00までにするのか？

A. (武市)

現状では具体的には決まっていない。

以上